

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372201380		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームチアフル友明かり		
所在地	愛知県一宮市北方町曾根字村裏西15番地		
自己評価作成日	令和元年9月10日	評価結果市町村受理日	令和2年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyo_syoCd=2372201380-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和1年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同じ敷地内に1ユニットは小規模多機能型、他3ユニットはグループホームになっている。田園風景の中の一部にあり、季節を肌で感じながら日々の生活を過ごしている。地域の方との触れ合う時間も多し。…年々歳を重ねる重々化され、グループホームの自立支援とかけ離れ身体介護・精神ケア・看取りと増えているが、利用者同士の助け合う姿や、生き生きとした表情で笑顔の絶えないユニット。「長生きして良かった。此処にきて良かった。」と、利用者間の会話から聞こえてくる。利用者様・ご家族様・職員の信頼関係も深く、満足ある暮らしのサポートを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、小規模多機能事業所を併設することで、利用者の様々な状況に等に合わせて小規模多機能からグループホームへの移行支援も行われており、利用者や家族にとっては、安心して生活場所を移行することができる利点がある。基本理念でもある「生きているってすてき」を支援の基本と考えながら、利用者一人ひとりに合わせた支援が行われている。介護計画の内容についても、利用者一人ひとりに合わせて作成され、日常的にも職員間で介護計画の内容に合わせた支援につなげる取り組みが行われている。日常生活の中でも毎日の食事作りを利用者でもできることに参加しながら行われており、ホームでの利用者の生活が前向きなものになるような支援が行われている。また、関連事業所との合同の運動会が行われており、家族も参加しながら利用者と一緒に楽しむ取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	目につく所に貼ってあり、毎月のミーティングの際に確認をしている。	運営法人で共通の理念である「生きているってすてき」を支援の基本としながら、毎日の朝礼時に理念を唱和する取り組みが行われている。また、目標をつくる取り組みも行いながら、理念の実践につなげる取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	春祭り・運動会・地域推進会議に参加して頂き交流を図っている。 散歩時気軽に挨拶・会話をしている。	地域の方との交流については、関連事業所とも連携しながら行われており、地域で行われている行事等への参加が行われている。また、ホームでも様々な行事を通じた地域の方との交流の機会がつけられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域推進会議・家族会・チアフル新聞・ブログで日々の活動を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者様の日々の生活や行事、目標・反省、ヒヤリハット・事故報告書を伝え、意見・質問を受け、向上に活かしている。	会議の際には、関連事業所とも連携しながら開催しており、それぞれの事業所から運営状況の報告を行い、出席者に事業所全体の取り組みを知ってもらう機会につなげている。また、会議に合わせた行事の実施も行われている。	現状、会議の出席者が限られた方となっている。家族の出席を促す取り組み等、ホームの継続的な取り組みにも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が携わっている。	市内の介護事業所との連絡会等の際には、関連事業所とも連携しながら参加する機会をつくっている。また、地域包括支援センターも参加しているケアマネ会にホームからも参加し、交流する機会もつけられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部勉強会・ユニット内での勉強会を行い、拘束委員会があり、代表者がユニット内で内容を報告し、ケアにつなげ取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、フロアーがホーム建物の2階にあるが、利用者に合わせた随時の対応も行われている。また、身体拘束に関する検討会議の実施や定期的な職員研修の取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ同士で注意し合い不適切ケアにも十分に気を付け、ヒヤリハットを記入するなどし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者により説明を受ける機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者が面談し、詳しく説明を行い安心して利用されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様から要望をうかがっている。会話の中から思いをくみとり反映できるよう心がけている。	関連事業所との行事(春祭り、運動会)の際には、多くの家族の参加が得られており、交流が行われている。行事後に独自のアンケートを実施しており、意見等の把握が行われている。また、毎月のホーム便りには利用者毎の近況も添えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	OJTシートやキャリアアップの仕組みがあり、個人面談でスタッフの意見をきく機会がある。	毎月の職員会議を行い、リーダーを中心に職員からの意見を集約して管理者に報告しており、ホームの運営への反映につなげている。日常的にも職員間で意見交換を行っている。また、管理者による職員面談の機会もつくられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価の中にアピールの項目がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	スキルアップできるよう勉強会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部の勉強会などに参加し交流を図り、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所から1か月はコミュニケーションや日々の状況を詳しく記載し、スタッフ間で共有し、話し合い、安心できる環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	管理者・リーダーが面談をし、家族様・ご本人の思いを受け止め信頼を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族様からの情報と、ご本人のできること・できないことを把握し、「今」何を必要とし求めているのかを知るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活においてご本人のできることを共にに行い見守る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時・チアフル新聞などにご本人の状態を伝え、家族様とのつながりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	気軽に訪ねて頂けるよう雰囲気大切にしている。電話もしている。	入居前からの友人、知人がホームに訪問する等、利用者との馴染みの関係の継続にもつながっている。利用者にとって馴染みのスーパーへの外出も行われている。また、利用者の中には、自宅に戻り家族と一緒に過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様の個々の性格を把握し良好な関係を築ける努めている。 レクリエーションで孤立しないように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居時声かけを行い、外出先で会った時は経過や状態を尋ね、相談・話をきくなど行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との信頼関係を築き、何でも話して頂けるよう努め、ご本人の思いを聞き、要望に沿えるよう検討している。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者の意向等の把握が行われている。日常的にも申し送りノートを活用したり、毎月のカンファレンスの実施等を通じて、利用者の意向をホームの運営に反映する取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族様より情報を収集したり会話から受け止め、スタッフ同士で共有し、理解し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	できること・できないことを確認し、心身状態(排泄・精神等)を常に把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の申し送りや、ミーティングで検討し、ケアの見直しをしている。	介護計画は6か月で見直しているが、利用者の状態変化に合わせた随時の見直しも行われている。また、生活記録用紙に介護計画に関する内容を記載することで、日常的なチェックが行われており、毎月のモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	プランに沿った支援や日々の変化、様子などを細かく記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人にとって一番よいケア方法を常に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	習字・コーラス・民謡などのボランティアに協力していただき活動を楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族の希望を優先している。全員ホームドクターに往診して頂いている。	協力医による定期的及び随時の医療面での連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた支援が行われている。受診についても、必要に合わせた対応が行われている。また、ホームに看護師が勤務している職員体制がつけられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月2回看護の日があり、状態を報告し把握してもらっている。 緊急時は看護師に連絡し指示を受ける。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医から紹介状を頂き適切な治療と、ワーカーと連絡を取り、情報交換し連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師・看護師・管理者・リーダー・家族様と十分に話し合い、方針を検討している。スタッフで共有し取り組んでいる。	利用者の看取り支援にも取り組んでおり、合わせて医療機関との連携も行いながら対応が行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを行い、意向に合わせた支援が行われている。また、状況等に合わせた職員への研修等も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故に対するマニュアルがあるのでミーティングなどで勉強をし身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	3か月ごとに防災訓練を行っている(水害・地震・火災)。	避難訓練については、併設事業所と連携して実施しており、夜間想定通報装置の確認も含めて、職員間で連携した取り組みが行われている。地域の方との協力関係にも取り組んでいる。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	水害時には、当ホームが2階のスペースにつくられていることで、1階にある関連事業所の利用者が避難することも想定される。様々な状況を想定した関連事業所との継続した検討、取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人の尊厳を大切にし、プライバシーを守り、言葉づかいに気を付けて対応している。	基本理念には、具体的な支援方針も記載されており、職員が日常的に唱和を行うことで、職員の意識向上の機会にもつながっている。また、職員の接遇につながる研修も実施しており、職員の言葉遣い等を振り返る機会がつけられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何気ない会話からご本人の思いが発言できるよう促している。 自己決定を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	家庭的な雰囲気大切に、ご本人のペースに合わせた生活ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節の変わり目には衣替えの支援をしている。 2か月に一度、移動美容院がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立を一緒に考えている。 準備・片付けは利用者様の残存機能を活かし取り組んでいる。	利用者の希望等を確認しながらメニューを考え、利用者も調理や片付け等のできることに参加している。日常におやつ作りを行い、利用者の楽しみにつなげている。また、身体状態に合わせた食事形態の提供や食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量・水分摂取量を記録し、把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、声かけ・見守りを実施している。歯科往診で口腔内清掃をして頂いている。夜間は義歯をポリドントで洗浄・消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	排泄表を確認し、声かけ・誘導をし、トイレで排泄できるよう自立支援を行っている。	利用者全員の排泄記録を残し、申し送りやカンファレンス等も行いながら、利用者に合わせた排泄につなげる取り組みが行われている。排泄に関する職員間で共有できる工夫も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげる取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給、野菜を多く取り入れ、マッサージ・運動で自然排便ができるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	ひとりでゆっくりと入浴できるよう支援している。入浴できない時はシャワーや清拭を行っている。	ホームでは、利用者の希望にも合わせながら、利用者が1日おきの週3回の入浴ができるように支援が行われている。身体状態に合わせた職員複数での支援も行われている。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自由に休憩をして頂いている。布団干し・シーツ交換・居室の温度調整をし快適に眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者様が服薬している薬を把握するよう努め、変更時は申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事仕事を個々に合った役割として提供している。喫茶店、ドライブなどで気分転換をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	利用者様の状態に合わせて散歩や地域の行事(クリスマス・七夕)に参加している。家族様の協力により外出・外泊を楽しむ事ができている。	近隣にある神社等に散歩に出かける等、日常的な外出の機会にもつながっている。年間を通じた外出行事が行われており、職員間で外出先を検討しながら、様々な場所への外出が行われている。また、少人数で買い物に行く等の支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人が必要としているものは家族様と連絡を取り購入して頂いている。お金の所持はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞いと年賀状は書けるようにレクリエーションに取り入れている。 電話がかかるとお話しされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合った掲示物を飾り、工夫をしている(作品や遠足写真など)。	ホームのリビングは広めの空間が確保され、採光にも優れた生活環境でもあることで、利用者はホームでゆったりと過ごしている。また、リビングや通路には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品が飾られてあり、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアーにはソファがあり、廊下にはベンチがあり、個々に休息のとり方をかえ思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族の写真やご自身の写真(夫婦)が飾られ、居心地よく安心して過ごされてみえる。	居室には、利用者の馴染みの物等の持ち込みも行われているが、持ち込みが限られている方もあり、利用者や家族の意向等にも対応した居室づくりが行われている。また、居室に家族との写真を飾る方や好みの物等を持ち込む方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアー・廊下には手すりがあり、夜間は灯りを調節している。 自室入口には表札をかけている。		